

# 人生ハンド仏句

## ごき母と想う

住職 谷川寛俊

去る八月二十七日午後六時十五分、俗名谷川初枝、慈心院妙徳日頭大姉、行年八十三歳。家族の読経の中、安らかに<sup>りょうぜん</sup>霊山浄土へと旅立ちました。ここに生前中の御厚情に對し、改めて深く感謝申し上げます。

昨年九月末、転移性肝臓

ガンで医師より余命一、二ヶ月との診断を受け一瞬驚きましたが、本人はいたって元気で何ら普段と変わることもなく、食欲もあり、お医者さんも首をかしげる程で御座いました。しかし、七月頃より体力も落ち始め、八月九日お盆前にととうとう入院に至った訳ですが、主治医の先生より、今日一日持つだろうかと言われ、もしもお盆の最中に何かあったらどうしよう

かと不安でしたが、入院して次の日には、再び元氣を取り戻し、笑顔も見せ対応してくれました。そしてお盆も無事終了し一段落した二十七日、朝病院からの電話で血圧が下がって来ているとの事で急いで病院へ駆けつけた時はまだまだ意識もはっきりしており、しかも不思議な事に虫の知らせとでも言うのでしょうか午前中に申し合わせたように姉妹の人達が、次々と面会に来ては、病室で話をし、別れ際に手を振って「またネ」という具合にしっかりしていたのですが、午後からだんだんと眠り

に入っ、正に安祥として涅槃に入られた訳です。本当に良い時機を選んでわずか十八日間の入院生活で、皆に迷惑をかけず、聞くところによりますと肝臓ガンは、激痛で苦しむ人が多いそう

### 第31号

H. 16. 10. 1  
(毎月1日発行)

編集・発行

玉蓮山真成寺

編集部

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

た。これも本人の信仰は勿論のこと偏に御本仏お釈迦様、日蓮大聖人様、そして諸天善神様の御守護のお陰と厚く感謝を申し上げる次第で御座います。思えば母は幼い五歳の時、真成寺三十三世先々代、上田寛龍上人の幼女として(母の実父の兄)真成寺に入り八年近く仏飯を食べ、檀信徒の皆様方に接し苦樂を共にし、本当に長い間物心両面に亘ってお世話に成りました事紙面を借りて深謝申します。余り表面に出ることなく、どちらかと言うと控えめな存在でした。私が小さい時からあまり大きな声で叱られたような記憶

はありませんでした。(これは良いのか悪いのか分かりませんが・・・)どなたもそうでありますように正に



《一億の人に一億の母あれど、我が母に勝る母なし》と  
言う諺が身にしみます。  
九十四才を数えます父もここに  
来てさぞ淋しい思いではないかと  
推察しますが、お

陰様で身心とも極めて元気で、朝五時励行のお勤め、更には自室での朝夕のお勤めを欠かすことなく、大きな本証の音を響かせ、全ての事にお祈りされている姿を拝見し頭が下がる思いでございます。どうぞこの上は一日も長く、寿命を賜り、残された人生をまっとうされますようただただお祈りするばかりであります。

又、母が家で療養中の間、更には入院してからもずっと献身的にお世話をしてくれた家内、そして娘に対して改めて御礼を申します。有難う御座いました。

尚、残された家族一同、今後とも変わらぬ御厚情と御指導、御鞭撻を賜ります様、謹んでお願い申し上げます。最後になりましたが、通夜の儀、並びに葬儀には、御多忙の中御焼香、御参列を賜り、又過分なる御厚志をお供え賜りました事、ありがたく厚く御礼申し上げます。次第で御座います。 合掌

